



## おじさんのかさ

佐野 洋子 作・絵

講談社 1974年 1470円

32ページ 31×22cm

お気に入りの立派なかさを使うなんてとんでもない！ただ大事に持ち歩くのがおじさんのスタイルです。雨が降ったらかさが濡れないように走りますし、かさがなくて困っている子にもしらんぷり。でもある日「あめがふったらポンポロロン」のなぞを解きたくなくて、おじさんもかさをさしてみることにしました。

声に出して読むとよりいっそう楽しい気持ちになり、雨の日が待ち遠しくなります。また、雨ににじんだような青い色調の絵を眺めているだけでも心がしっとりしてくるようなすてきな絵本です。



## おちゃのじかんにきたトラ

ジュディス・カー 作 晴海 耕平 訳

童話館 1993年 1470円

32ページ 27×19cm

ソフィーとお母さんが、お茶の時間にしようとしていると、トラがやってきました。とても礼儀正しい挨拶をするトラでしたので、二人は快く迎え入れました。トラはみるみるうちに、家中のありとあらゆる食べものを平らげ、水道の水まで全部飲み干して帰っていきました。「すてきなおちゃのじかんにありがとう。ぼくは、そろそろおいとまします。」最後の挨拶もそれは立派なものでした。でも大変です。トラが全部食べてしまったのでお父さんの晩ご飯がありません。水もないのでお風呂にも入れません。帰ってきたお父さんに事情を話したところ……。このあとのお父さんの行動はとても素敵です。おおらかな家族の姿に心なごむ一冊です。

